

# あいさつ

エコチル調査福島ユニットセンター  
センター長 橋本浩一

## 令和からのエコチル調査

日頃よりエコチル調査へのご理解、ご協力に厚く感謝申し上げます。

平成23年1月から開始されたエコチル調査は9年を経過し、10年目を迎えています。福島県では全県下で、12,202人(対出生数94.8%、令和2年3月末)の児が参加しています。現在5歳から8歳の年齢で実施されている本調査は、子どもの成長とともに生活が変化し、それに合わせて調査実施方法の変化が求められます。そうした中で、令和元年度からは、新たに個人小児科医院を加えた6歳時詳細調査、2年生の全参加者を対象とした学童期検査が開始されました。さらに、子どもの成長、発達、そして保護者の養育状況に合わせて様々な取組をしました。一方で、元年秋の台風による豪雨災害、年明けから深刻化している新型コロナウイルス感染症のわざわい(災、禍)により、秋に開催を予定していた県内各地域での地域運営協議会は中止とし、また令和2年3月からの対面調査(詳細調査、学童期検査)も当面中止せざるを得ない状況です。多難の幕開けの令和のエコチル調査となりましたが、ここに令和元年度のエコチル調査福島ユニットセンター(UC)の活動報告書を取りまとめましたので、ご覧ください。

### “調査参加者の生活変化に合わせた実施体制”

全参加者の5%(福島県では約630人)を対象とした詳細調査(医学的検査)を2歳から2年毎に県内各地域10か所の基幹病院で実施してきました。児の就園、保護者の就業など生活が変化し、年齢が上がるほど日程調整が困難となり欠測が増えてきました。6歳時の実施に向けての対象者の保護者アンケート調査により、夕方の遅い時間、土曜日の実施、そして掛かりつけ医や個人病院での実施を望んでいることが明らかとなりました。これらの結果を受けて、令和からの6歳時の医学的検査では、新たに県内各地域約20か所の個人医院に協力を依頼し、平日の夕方、土曜日にも検査可能な体制としました。

### “学童期検査の開始”

令和元年度からは新たに学童期検査が開始されました。小学2年生と6年生の全参加者を対象する対面調査であり8年間続きます。県内の公共施設等での集団検診方式とし、小学2年生の学童期検査では尿検査、身体計測、そしてコンピューターを用いた発達検査を実施しました。初年度は県北、相双地域の参加者が殆どであったため、福島市保健福祉センター、伊達市保原保健センター、道の駅国見 あつかしの郷、原町区福祉会館を使用しました。次年度からは全県で実施します。平成から繋いできたエコチル調査です

が、学童期検査が実施される令和元年からの8年間で本調査の成功の鍵を握る大切な時期となります。また、多くの保護者の方々とは、産婦人科でのリクルート以来のお顔を合わせる機会であり、保護者の方々、そしてお子さんにお会いできることを楽しみにしています。

#### “環境セミナー”

広く環境について学ぶ「環境セミナー」を昨年度から開催しています。子ども達の成長を保護者と共に見守るお手伝いをし、その中で調査にご協力いただくのがエコチル調査ですが、同時に環境について一緒に学べる機会にしたいと考えています。令和元年度は、国立環境研究所より講師をお迎えし、地球温暖化についてワークショップ形式で学びました。

#### “小学生対象ふれあい会”

“顔の見える調査”をモットーに、子どもの成長に合わせた「エコチルふれあい会」を開催しています。令和元年度は、国立磐梯青少年交流の家、福島県文化財センター白河館(まほろん)、郡山市ふれあい科学館 スペースパークのご協力のもと、創作、野外活動に臨みました。また、人気の高いキッズダンスも開催しました。いずれも土日の開催とし、県内各地から家族そろってのご参加を頂きました。

#### “子育て講演会&ファミリーコンサート”

毎年夏に「子育て講演会&ファミリーコンサート」を開催しています。参加者の関心が高いアレルギーに関して、前年度に引き続きアレルギー専門医による「アレルギーって何？正しい理解と正しい付き合い方」と題した講演会を開催しました。多くの参加者、関係者が講演会に耳を傾けました。

#### “エコチル調査からのエビデンス”

調査、研究である本出生コホート調査の目的は、確かなエビデンス(根拠・証拠)を得て社会に還元することです。学内では毎月のメールマガジンで研究者を募り、さらに学内学術ワーキンググループメンバーによる勉強会を毎月開催し、学術レベルでのエコチル調査の活性化に努め、一つでも多くのエビデンスの論文発表を目指しています。当UCを含めエコチル調査からの発表論文は当UC、あるいは環境省のホームページからご覧いただけます。

令和に入り、スタッフに「福島UCにおける3つの“C”」を提案しました。Colleague(仲間・同僚)、Challenge(挑戦)、Communication(意思疎通・情報共有)です。成長する子ども達、新たな調査の開始、そしてコロナ禍の中で、本調査をやり遂げるために、新たな業務に挑み、参加者・関係者・スタッフとのコミュニケーションを図り、アイデアが益々求められるステージに入りました。今後ともご理解、ご協力のほど、よろしく願います。

令和2年6月